

研究教育業績（過去5年間）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

1. Takizawa Y., Oguri J., Uno M., Onsu A., Ishimura A., Kurita T., Nakajima T. Effects of a GLP-1 Receptor Agonist on Gastrointestinal Epithelial Cells. *Sch. Acad. J. Pharm.*, 11(4): 60-66 (2022).
2. Ishimura A., Takizawa Y., Sako K. Problems with Tablet Splitting in Sitagliptin Tablets for Diabetes. *Applied Therapeutics*, 16: 36-43 (2021)
3. Nakajima T., Ito S., Kikuchi R., Oto C., Ota M., Hidaka S., Takizawa Y., Kurita T. Discussion of Preservation Methods for One-Dose Package of Suvorexant Tablets. *J. Jpn. Soc. Hosp. Pharm.*, 57(8): 875-880 (2021)
4. Takizawa Y., Arakawa M., Kurita T., Nakajima T., The Influence of 4-methylimidazole on the Gastrointestinal Epithelial Cells. *J. Excipients and Food Chem.*, 12(1), (2021).
5. Takizawa Y., Furuno Y., Hayashi M., Effects of Polyvinylpyrrolidone (K90) on Membrane Permeation via the Transcellular Route in the Rat Jejunum. *J. Pharm. Investig.*, 51(3): 311-316 (2021).
6. Takizawa Y., Goto N., Furuya T., Hayashi M., Influence of pharmaceutical excipients on membrane transport of P-glycoprotein substrate in rat small intestine. *Eur. J. Drug Metab. Pharmacokinet.*, 45(5): 645-652 (2020).
7. Takizawa Y., Tobe Y., Sakamoto N., Sakamoto J., Hayashi M., Sodium Nitroprusside Enhances Absorption in the Rat Jejunum via the Transcellular Route. *J. Membr. Biol.*, 253(3), 221-228 (2020).
8. Takizawa Y., Aizawa Y., Furuya T., Hayashi M., Influence of Pharmaceutical Excipients on Membrane Transport via Transcellular Route in Rat Small Intestine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, 8(11), 488-496 (2019).
9. Takizawa Y., Tobe Y., Sakamoto N., Hayashi M., Effects of Intestinal Ischemia/Reperfusion on Organic Cation Transporters mRNA Expression Level in Rat Small Intestine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, 8(2), 44-50 (2019).
10. Takizawa Y., Koda D., Takahashi M., Komura Y., Kizawa M., Kurita T., Nakajima T., Influence of Non-Alcoholic Beverage on Gastrointestinal Epithelial Cells, *Sch. Acad. J. Pharm.*, 7(5), 203-207 (2018).
11. Takizawa Y., Sakamoto N., Tobe Y., Hayashi M., Changes in Function and Expression Level of Multidrug Resistance-Associated Protein during Intestinal Ischemia/Reperfusion, *Sch. Acad. J. Pharm.*, 7(2), 60-66 (2018).

[その他]

1. 瀧沢裕輔、医薬品の消化管吸収の重要性に魅せられて、埼玉県薬剤師会雑誌、44(6), 16-18 (2018)

2. 主な学会発表

[国際学会]

1. Y. Takizawa, Y. Komura, Y. Nakamura, M. Sadaoka, N. Niwa, T. Kurita and T. Nakajima. Effect of mycophenolic acid on membrane permeability via paracellular route and transcellular route. 1st Asian Association of School of Pharmacy (AASP) Young Scientist Conference, (2020. 12, Online)

[国内学会]

1. 中島孝則、伊藤創馬、菊池 蘭、大戸智絵、太田美鈴、日高慎二、瀧沢裕輔、栗田拓朗、一包化調剤したスポレキサント錠の保存方法に関する検討、日本薬学会第 142 年会 (2022 年 3 月、名古屋)
2. 瀧沢裕輔、國井稔也、宇野雅也、古屋貴人、栗田拓朗、増田純一、中島孝則、日本において未承認の後発品 HIV 治療薬の溶出性と膜透過性の評価、第 35 回日本エイズ学会学術総会 (2021 年 11 月、東京)
3. 瀧沢裕輔、恒常的な乳製品の摂取による栄養素の消化管吸収変化の可能性、公益財団法人 東洋食品研究所 第 3 回研究成果発表会 (2021 年 10 月、オンライン) (招待講演)
4. 瀧沢裕輔、高橋優斗、宮部耕佑、宮田美生、栗田拓朗、中島孝則、ミコフェノール酸モフェチルの溶出性に対するプレドニゾンおよびタクロリムスの影響、日本薬剤学会第 36 年会 (2021 年 5 月、徳島)
5. 中島孝則、伊藤創馬、菊池 蘭、大戸智絵、太田美鈴、日高慎二、瀧沢裕輔、栗田拓朗、一包化調剤したベルソムラ錠の吸湿性と保存方法に関する検討、日本薬剤学会第 36 年会 (2021 年 5 月、徳島)
6. 瀧沢裕輔、高橋優斗、宮部耕佑、宮田美生、栗田拓朗、中島孝則、ミコフェノール酸モフェチルの溶出性に対する併用薬の影響、日本薬学会第 141 年会 (2021 年 3 月、広島)
7. 大戸智絵、栗田拓朗、瀧沢裕輔、中島孝則、一包化したアトルバスタチン錠ならびにアトーゼット配合錠の光安定性について、日本薬学会第 141 年会 (2021 年 3 月、広島)
8. 菊池 蘭、伊藤創馬、太田美鈴、日高慎二、瀧沢裕輔、栗田拓朗、中島孝則、一包化したベルソムラ錠の保存方法に関する検討、日本薬学会第 140 年会 (2020 年 3 月、京都)
9. 栗田拓朗、大橋拓斗、竹内勇樹、目時楓大、外山雅子、平岡優希、瀧沢裕輔、中島孝則、添加剤から構成されるイオン液体に対するクルクミン溶解性の評価 (第 2 報)、日本薬学会第 140 年会 (2020 年 3 月、京都)
10. 瀧沢裕輔、経口投与製剤の溶出性に対する併用薬の影響、令和元年度日薬研究会 (2020 年 1 月、埼玉) (招待講演)
11. 中島孝則、菊池 蘭、伊藤創馬、太田美鈴、日高慎二、瀧沢裕輔、栗田拓朗、分包したベルソムラ[®]錠の保存安定性について、第 29 回日本医療薬学会年会 (2019 年 11 月、福岡)
12. 菊池 蘭、伊藤創馬、太田美鈴、日高慎二、瀧沢裕輔、栗田拓朗、中島孝則、ベルソムラ[®]錠の一包化に向けた保存条件の検討、埼玉医療薬学懇話会第 39 回学術研究講演会 (2019 年 7 月、さいたま)
13. 瀧沢裕輔、高橋優斗、宮部耕佑、栗田拓朗、中島孝則、経口投与製剤の溶出性および膜透過性に対する併用薬の影響～ミコフェノール酸モフェチルを用いた検討～、日本薬学会第 139 年会 (2019 年 3 月、千葉)
14. 伊藤創馬、大戸智絵、菊池 蘭、太田美鈴、日高慎二、瀧沢裕輔、栗田拓朗、中島孝則、ベルソムラ[®]錠の一包化に向けた保存条件の検討、日本薬学会第 139 年会 (2019 年 3 月、千葉)
15. 石山萌子、坂森あすか、小嶋ひかる、草野滉平、栗田拓朗、瀧沢裕輔、中島孝則、添加剤から構成されるイオン液体に対するクルクミン溶解性の評価、日本薬学会第 139 年会 (2019 年 3 月、千葉)

16. 橋本実菜、齊藤大悟、朝 優佑、間野綾菜、澤口能一、瀧沢裕輔、栗田 拓朗、佐竹 清、岩田政則、中島孝則、アルギン酸によるウリナスタチン膾坐剤徐放化の検討、日本薬学会第 138 年会（2018 年 3 月、金沢）
17. 瀧沢裕輔、消化管吸収における吸収制御因子の変動に関する研究～病態変動・吸収促進～、平成 29 年度日薬研究会（2017 年 5 月、埼玉）（招待講演）

3. その他特筆すべき研究業績

【研究費の受け入れ状況】

1. 日本薬科大学学術研究助成金（研究代表者）（300 千円）「HIV 感染症予防における後発品 HIV 治療薬の有効性と安全性の評価」（2021－2022）
2. 日本食品化学研究振興財団研究助成金（研究代表者）（500 千円）「カラメル色素Ⅲ・Ⅳに含まれる 4-Methylimidazole の消化管上皮細胞への影響」（2021－2022）
3. 東洋食品研究所研究助成金（研究代表者）（1,000 千円）「恒常的な乳製品の摂取による栄養素の消化管吸収変化の可能性」（2020－2021）
4. 中富健康科学振興財団研究助成金（研究代表者）（1,500 千円）「経口投与剤の後発品への切り替えおよび併用摂取における溶出性・膜透過性の変化に関する研究」（2019－2020）
5. 科学研究費補助金（若手研究）（研究代表者）（4,030 千円）「細胞内 GTP 量制御を用いた新規細胞膜透過性制御機構の開発」（2018－2020）
6. 日本薬科大学学術研究助成金（研究代表者）（350 千円）「医薬品添加剤の差異が及ぼす医薬品の溶解性・膜透過性・薬効への影響」（2017－2018）
7. 上原記念生命科学財団リサーチフェローシップ（4,000 千円）「GTP 代謝を標的とした癌の新規診断・創薬基盤技術の開発」（2016－2017）

II. 教育業績

1. 担当授業科目

2021 年度

薬学原書講読Ⅰ（3 年前期）分担 2 コマ

薬物動態解析（3 年後期）15 コマ

薬物送達法（3 年後期）分担 7 コマ

薬剤系実習

薬学総合演習Ⅰ（4 年）3 コマ

薬剤学特論（6 年）2 コマ

薬学総合演習Ⅱ（6 年）3 コマ

Online Summer program（留学生）1 コマ

2020 年度

薬学原書講読Ⅰ（3 年前期）分担 2 コマ

薬物動態解析（3 年後期）15 コマ

薬物送達法（3 年後期）分担 7 コマ

薬剤系実習

薬学総合演習Ⅰ（4 年）3 コマ

薬剤学特論（6 年）2 コマ

薬学総合演習Ⅱ（6年）3コマ

臨床薬物動態学特論（大学院）8コマ

2019年度

薬物動態解析（3年後期）15コマ

薬物送達法（3年後期）分担7コマ

薬剤系実習

薬学総合演習Ⅰ（4年）3コマ

薬学総合演習Ⅱ（6年）2コマ

Summer program（留学生）2コマ

2018年度

薬物動態解析（3年後期）15コマ

薬物送達法（3年後期）分担7コマ

薬剤系実習

薬学総合演習Ⅰ（4年）3コマ

薬学総合演習Ⅱ（6年）2コマ

2017年度（日本薬科大学）

薬学原書講読Ⅰ（3年前期）分担2コマ

薬物動態解析（3年後期）15コマ

薬剤系実習

薬学総合演習Ⅰ（4年）3コマ

薬学総合演習Ⅱ（6年）2コマ

2. その他特筆すべき教育業績

なし